

## 災害対策に取り組みました

### はじめに

近年、毎年のように全国各地で自然災害が頻発し、甚大な被害が発生しています。大型台風や大地震、さらには局地的豪雨など、自然災害は予期せず発生します。上下水道局では、危機管理・災害対策を重点施策の一つとして捉え、訓練の実施や施設の整備などの取り組みを進めています。今回は、その取り組みの一部をご紹介します。

### 初期給水拠点訓練の実施

震度6弱以上の地震が発生した場合、市民の皆さまに水を供給するため、市内4か所の配水場等（楠葉配水場、長尾宮前配水場、津田高区配水場、香里受水場）で「初期給水拠点」を開設し、給水活動を開始します。速やかに市民の皆さまに給水活動を行えるよう、令和4年度も実災害を想定した訓練を4か所すべてで実施しました。



(香里受水場での訓練の様子)

### 地域防災訓練等への参加

地域の小学校や自治会が実施する防災訓練等に参加し、その中で、地域の皆さまに給水活動や災害時の備えについて講話させていただきました。また、給水車を使った模擬給水活動や給水バルーンへの給水等の実演も行い、参加いただいた市民の皆さまに危機管理への理解を深めていただきました。



(津田小学校での訓練の様子)

### 協定先との合同訓練の実施

大規模災害の発生を想定した民間企業等との合同給水訓練を実施しました。これは、災害時に民間企業等から緊急対応に関する支援を受けるために締結した「災害支援協定」に基づき実施したもので、官民が連携した防災訓練を行うことにより、上下水道局の防災体制の向上を図ることができました。



(春日受水場での訓練の様子)

【記事に関するお問い合わせ：総務課】

★市民の皆さまと上下水道局をつなぐ水のお便り

# Water通信

ウォーターつうしん

第11号  
令和5年3月

発行 枚方市上下水道局 〒573-1030 枚方市中宮北町20番3号 TEL 072-848-4199 (代) FAX 072-848-8255

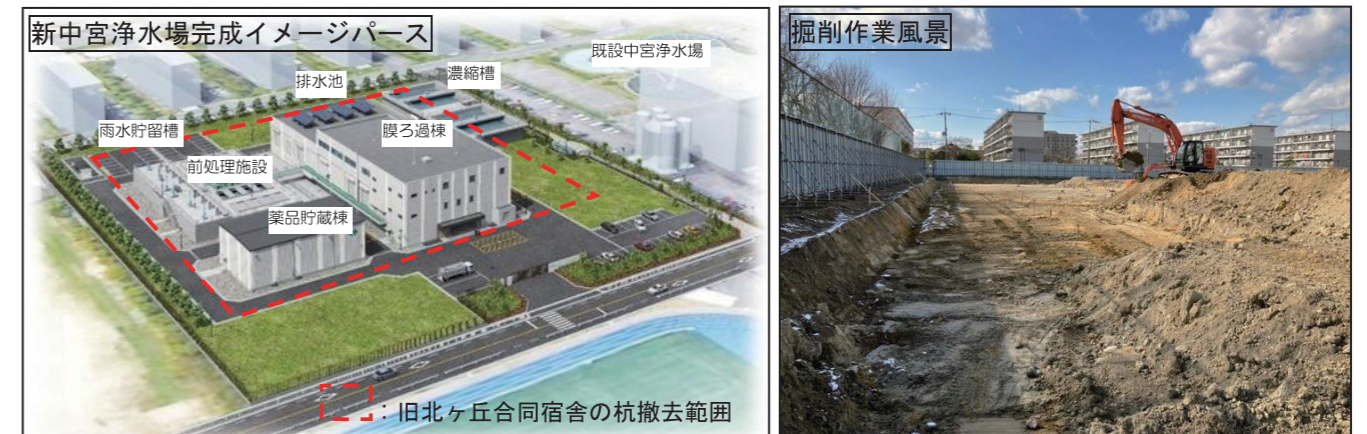
「Water通信」は、上下水道局が取り組んでいる“水”に関する情報を広くご紹介するための情報誌です。  
「Water通信」第11号では中宮浄水場更新事業の進捗、楠葉地区における浸水対策の取り組み、雨天時浸入水の調査、災害対策について、をご紹介します。

## 中宮浄水場の更新工事が始まりました

Water通信第10号(令和4年3月)でお知らせした浄水場の更新工事に令和5年1月より着手し、令和9年4月の通水を目指しています。

### 現在の状況

令和3年12月20日に契約した後、工事に向けた設計業務を行い、令和5年1月より一部地盤の掘削作業などに取り組んでいます。中宮浄水場更新事業の用地には以前、近畿財務局の官舎(北ヶ丘合同宿舎)が建っていましたが、建物については、既に解体撤去が完了しています。しかしながら、当時の建物を支えていた基礎杭が今も地中に残っているため、今回の掘削作業にあわせ、基礎杭の撤去も進めていきます。



### 今後の予定

中宮浄水場更新事業の用地においては上記新中宮浄水場完成イメージパースの①排水池・雨水貯留槽、②前処理施設・膜ろ過棟、③濃縮槽・薬品貯蔵棟の順番で建設予定です。また、敷地外の工事については、高度浄水施設までろ過水を送るために道路下に配管を敷設する工事(シールド工事)を行います。

近隣にお住まいの皆さまには工事の進捗に合わせ、随時お知らせをしていくとともに、枚方市のホームページでも中宮浄水場更新事業についてさまざまな情報を発信していきますので、ぜひご覧ください。



【記事に関するお問い合わせ：浄水課】



# 浸水被害の軽減対策を進めています

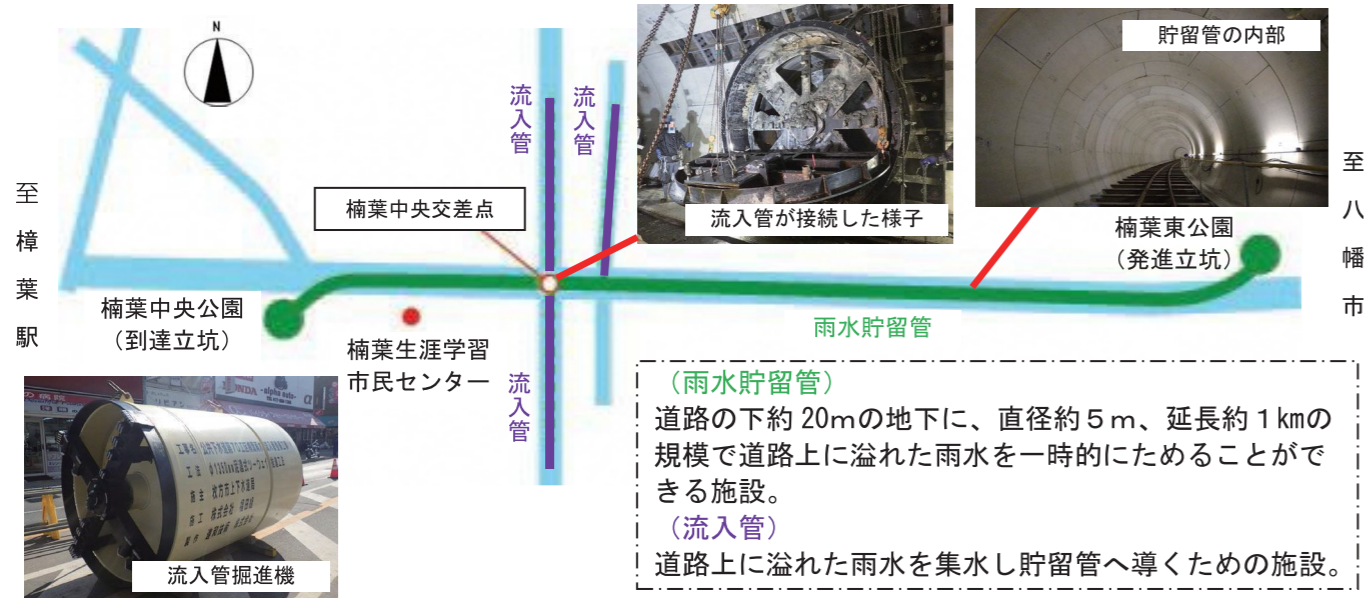
## 背景

楠葉地区では、大雨により過去から度重なる家屋への浸水や道路冠水が発生しています。平成24年には観測史上最大の降雨量を記録し、甚大な浸水被害が発生しました。これらの浸水被害を軽減するため、平成29年度から雨水貯留管などの整備を進めています。

## 効果

雨水貯留管や流入管が完成すると、溢れた雨水を一時的に最大約2万m<sup>3</sup>（25mプール約56杯分）貯留することが可能となり、浸水被害の軽減が見込めます。

一時的に貯留された雨水は雨が止んだ後、排水先の川の水位を確認しポンプで排水することで、次の大雨に備えることが可能となります。



# 雨水ポンプ場の長寿命化に取り組んでいます

大雨時に浸水被害を軽減するために、市内9か所に設けられている雨水ポンプ場の計画的な点検・調査や修繕等に取り組んでいます。排水ポンプの分解調査（オーバーホール）では、製造から年月が経過したポンプを分解し、不具合の修正・消耗品の交換後、再度組み立てて塗装し元の場所に再設置します。これによりポンプの故障リスクを低減し、安定した雨水排水が望めます。

令和2年度に安居川ポンプ場2号ポンプ、令和3年度にサダポンプ場1号ポンプ（下の写真）の分解調査が完了し、令和4年度はサダポンプ場2号ポンプの分解調査に取り組んでいます。

今後も災害に強いまちを目指し、計画的に事業を進めていきます。



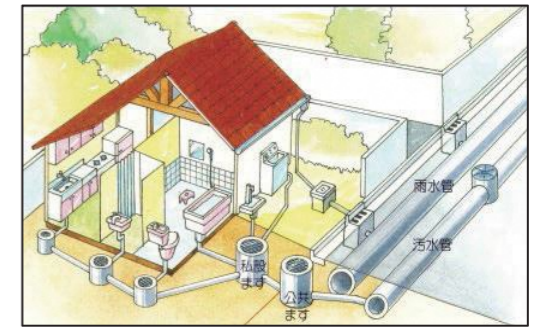
【記事に関するお問い合わせ：雨水整備課】

# 大雨時にトイレが流れにくくなるのはなぜ？

## はじめに

枚方市の下水処理は、汚水（生活排水等）と雨水を別々の管に流して処理する分流式となっています。大雨時にトイレが流れにくくなる原因は、生活排水等を流す污水管に雨天時浸入水（下記参照）が流れ込むことで増水し、汚水が流れにくくなるなどが考えられます。

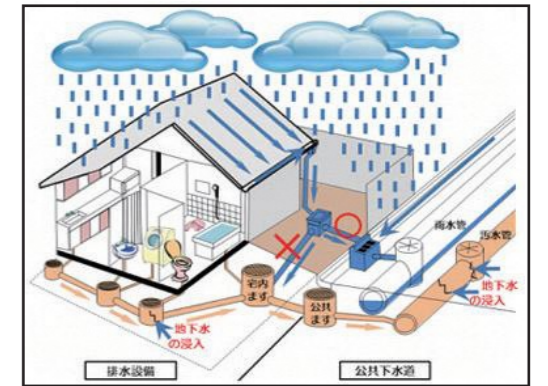
また、雨天時浸入水による増水は下水処理施設に過度な負担をかけるため、その削減に向けた取り組みを進めています。



## 『雨天時浸入水』とは？

污水管に浸入する雨水のことで、直接的に流れ込む直接浸入水と間接的に流れ込む雨天時浸入地下水からなります。

直接浸入水は、道路側溝や宅内等から流れる雨水排水の污水管への誤接合や、マンホール蓋の穴から、雨水が污水管に浸入するもので、雨天時浸入地下水は、老朽化により継ぎ手部分に生じたズレや本管のひび割れ・破損箇所から、降雨等により水位が上昇した地下水が污水管に浸入するものです。



## 雨天時浸入水の削減に向けた取り組み

### ○雨天時浸入水流入箇所の特定

#### 手順1 流量を計測し比較する

マンホールの中に流量計を設置し、晴天時と雨天時における流量の差が雨天時浸入水量と考えられるため、その結果に基づき、詳細な調査を行うエリアの絞り込みを行います。

#### 手順2 送煙調査を実施する

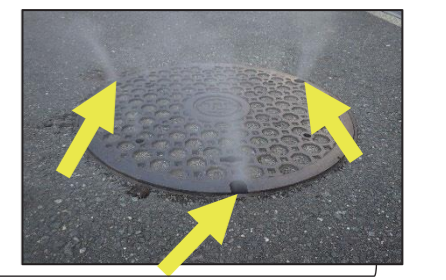
エリアの絞り込みができれば、実際に浸入箇所を特定するため、マンホールと污水管内に煙を充填させ、どこから煙が出てくるかを確認します。（下図参照）



マンホールからの送煙状況



側溝の亀裂やマンホール蓋の穴から煙が上がっている様子  
（雨天時浸入水として污水管内に入ってくるおそれがある箇所）



## 今後について

引き続き、雨天時浸入水の流入箇所を特定するとともに、送煙調査で確認できた箇所については、必要な対策を講じていきます。

【記事に関するお問い合わせ：污水整備課】